

米田柔整の女子学生12名が新たに参加



名古屋ウィメンズマラソン2018 救護・ケア

3月11日(日)、スタート時の気温8.3度、風速0.3m/秒という好条件のなか、「名古屋ウィメンズマラソン2018」が開催された。従来どおり中日新聞社事業局スポーツ事業部からの依頼で、会員14名と名古屋リゾート&スポーツ専門学校の女子学生6名、米田柔整専門学校の女子学生12名と引率教員2名の合わせて34名が、午前8時から午後4時50分まで、ナゴヤドームに隣接する名古屋市東スポーツセンター2階(第1競技場)ランナーズケア会場第2ブースにて救護ケア活動を行った。

午前8時45分、ベッド8台をはじめ救護ケアに使用する資材を搬入し、活動の準備を開始。10時45分に参加者全員を一堂に集め森川会長は、世界最大の女子マラソン大会の早朝から長時間に及ぶ救護ケア活動への協力に対して謝意を示し、「学生にとってよい経験となると思う。いろいろな意味で多くを学んでいただき、将来に結びつけて欲しい」と挨拶した。

その後、柔整手技やストレッチングの方法、救護バッグ・担架・三角巾の使い方などについて事前説明や実技指導が行なわれた。

午後0時55分に両下腿三頭筋の痛みを主訴とする女性ランナーを手始めに、去年より36名多い176名の男女ランナーに対して、柔整手技、ストレッチング、アイシング、テーピング等を学生に指導しながら施行することができた。

今年は新たに米田柔整の学生が加わり、2校の18名が活動を支えてくれてより丁寧なケアができたうえ、明るく和やかな雰囲気の中でランナーを迎えることができた。また学生はアスリートに触れる機会が得られ、よい経験になったと思われる。

今までの活動が評価されてきたためキャリアピーターが多くなってきた。来年も引き続き専門学校の協力を得ながら、ランナーに寄り添ったよりよい救護ケア活動ができるように準備していきたい。

【活動参加者】 (敬称略)

- [役員・部員] 森川伸治、藤川和秀、小林弘治、河合一弘・石川 真
- [一般会員] 山本カヨ子・山本もとみ・村田衛民(半田)、小野文行(笠寺)、山田久美(中村)、井上哲三・押谷昌之・横井達典・安達忠弘(大曽根)
- [その他] 島 大輔・飯田直久(米田柔整専門学校教員)
- [女子学生] 名古屋リゾート&スポーツ専門学校6名・米田柔整専門学校12名

柔整療養費取扱い研修会開催

愛知県柔道整復療養費取扱い研修会が、3月13日(火)と14日(水)の両日、午後1時30分から午後3時まで会館講堂で開催され、2日間で合わせて395名が参加し熱心に聴講した。

■制度改正と専門検討委員会の現状 (森川会長)

冒頭の挨拶で、「少しでも最新の情報をお伝えしたいということで年度末ぎりぎりの研修会開催となったことを理解してほしい」と前置きし、養成施設の卒業生が減っていることや単位数の大幅な増加によって夜間コースの運営維持が困難となっていることなどを紹介。その後、制度改正を中心に養成施設のカリキュラム等の改正や料金改定、健保組合の取り組み、自賠責保険の取扱い、違法広告について解説した。



■審査会での審査内容及び対策 (藤川副会長)

2月に行われた業界説明会で説明した内容を元に、負傷原因が画一的、多部位負傷や近位の負傷が多い、定期的施術が多い、長期にわたり負傷・

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
芝原高行	S54.2.18	鶴舞	名古屋医専	—	登山
平野将弘	S63.7.12	熱田	米田柔整	初段	釣り
下山徳大	H1.6.25	笠寺	了徳寺学園	四段	映画鑑賞
篠田一英	S61.9.13	岡崎	米田柔整	—	サッカー



芝原高行
会員



平野将弘
会員



下山徳大
大会員



篠田一英
会員

ストレッチングの基礎知識を学ぶ

第30回機能訓練指導員実務研修会(第13回フォローアップ講習会)

3月4日(日)、午前10時30分から12時15分まで、本会会館3階講堂にて248名(勤務柔整師13名を含む)が参加して、第30回機能訓練指導員実務研修会(第13回フォローアップ講習会)が開催された。



今回、名古屋大学大学院医学系研究科・理学療法学講座教授・理学療法士の鈴木重行先生に、「ストレッチングの科学—運動器の痛みと関節可動域制限に対する考え方と介入方策—」と題してご講演を頂いた。

鈴木先生は慢性運動器疼痛の統計学的データや科学論文をもとにストレッチングのための基礎的事項を説明したあと、広汎性侵害抑制調整(DNIC)を利用した疼痛抑制法を紹介し、この方法がコメディカルの治療において有用であるとされた。

また「背部痛 理学療法診療ガイドライン」から、慢性腰背部痛の改善には全身運動が最も効果的であることや、ストレッチングや筋力増強訓練はエビデンスレベルがある程度高いこと、超音波や牽引療法・安静・コルセット装着などは行ってはいけないことが科学的に証明されていることなどにも言及された。

さらに、スタティック・ストレッチングにはPNFストレッチングや先生ご自身が提唱するIDストレッチング(個別的な筋伸張法)があることを示し、またストレッチングの効果の検証として、1回のストレッチングの時間は20~30秒が有効であること、ストレッチング回数は一度で2~3回すること、ストレッチング後の関節可動域は60分で元に戻ることなどを解説された。

最後に、ストレッチには解剖学の知識が最も大切であり、また患者の訴えに注目して伸張性を高めることが治療に重要であると締めくくられた。

治療の繰り返しが多いなど、疑義を持たれたり返戻されたりしやすい申請内容を紹介。柔道整復術に基づいた内容であるか、すなわち負傷原因や負傷部位・症状・施術内容・通院頻度・経過・結果の7項目が請求書から読み取れるかを常に念頭に置くことが重要だとして、申請書の適正な記載や対応について詳述した。

■返戻申請書への対応 (山口保険部長)

受療者への照会調査による返戻や不支給への対応を解説し、返戻されないための事前の対策を紹介。また医師から口頭で同意を得た場合、医師にお礼状や経過報告書を送ることで患者さんを通し医師と良好な関係を築くこと、運動療法料は各種運動器具を使用した場合に算定できるとされているが、症状や経過によっては必ずしも器具を使用しなくても算定可能であること、自賠責における包帯の取扱いで、巻軸包帯以外にも包帯の範疇には、救急絆創膏や伸縮性絆創膏、三角巾やネット包帯等が入ることやテーピングも包帯の一種としてよいことなどを述べた。

